

## 放映の始まった「とんと昔があつたげな」

酒井 董美ただよし



解説相方の江畑春奈さんと（出雲かんべの里民話館前で）

山陰ケーブルビジョン・マーブルで、4月から「とんと昔があつたげな」の15分番組が始まった。再放映もあるが、毎月1回放映。語りは出雲かんべの里民話館（松江市大庭町）所属の「とんと昔のお話会」のメンバーが交代で出演することになっており、解説は筆者が務める。そして筆者から聞き出す相方は、江畑春奈さんという若い女性が担当している。局の要請としては、松江市を中心とした出雲地方に伝わる民話を紹介したいということにある。

初回は山田理恵さんの「いいもの食いたい楽したい」（松江市北堀町の祖母から聞く）だった。メンバー最古参の山田さんの語りは、さすがに見事であった。普段は15分はかかる内容を、放送時間の関係から5分にしてほしいとのこと、強引に5分に収めた苦労は普通なら不可能に近いはず。しかし、ペテランの彼女は見事に期待に応えてくれた。

何しろ初回の放送なので。民話の何であるかをやさしく伝えなければならず、その役割は筆者にある。相方の江畑さんの投げかける質問に答える形で話を進めたが、この江畑さんがまたまた自然体で演技がうまい。いつしか彼女の発問に乗せられて、筆者の言わんとするポイントを押さえることができたようだ。つまり、民話は民間話の述語を縮めたもので、神話、昔話、伝説、世間話の四つの分野からなっており、昔話の話題句「とんと昔があつたげな」は、「尊い昔があつたさうだ」と神代の昔を讃え、神に捧げる話から来たものであること。結句「こっぼし」も昔話「まつこう」という言い方もある。石見地方では「ぼつちり」。隠岐の島前地区・知夫村では「その昔のこんべのはあ」が一般的であるが、島後地区では、旧都万村蛸木や津戸では「とん」が優勢で、他では「すつとんからん」とか「すつとんかつとんからかつとん」。鳥取県東部では「ぼつちり」。新潟では「いちがぼーんとさけた」。東北地方では「どーんぴん」など、一種の結句方言というような様相を呈していることを話すことができた。

この番組は視聴者に民話を楽しんでもらおうという狙いを持っているが、出演する方としては、単に楽しむだけでなく、無形民俗文化財として位置づけ、祖先から伝えられた民話の持つ意義をしっかりと理解してもらいたいという願いを持っており、この機会に伝承文学である民話について、よき理解者になつていただこうというところにある。そのような気持ちの交錯する中で初回の収録を終えた。今後、この番組がどのように発展していくのか筆者たちは大いに期待しているところである。（元島根大学法文学部教授）